



発行日：令和3年6月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第9回市民部会WGを開催しました！

第9回市民部会WGを、緊急事態宣言発出期間中における新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で、豊田市にて開催しました。令和3年度第1回目の市民部会では、今年度実施予定のバスツアー、公開講座について具体的な計画を協議しました。



日時：令和3年6月9日（水）14:00～16:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 2階 大会議室

参加者：16名（内オンライン参加6名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. 今年度の矢作川流域圏懇談会の進め方

今年度の矢作川流域圏懇談会の進め方について、緊急事態宣言発出期間（まん延防止等重点措置発出期間を含む）中、または、平常時における開催方針の説明を行いました。今回のWGは、緊急事態宣言発出中であることから、対面形式の人数を最小限とし、オンラインに重点を置いた形式で実施しました。

2. バスツアーの計画について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため順延していたバスツアーについては、令和3年11月に以下の内容で実施する方針となりました。なお、実施の最終決定については、9月に新型コロナウイルスの感染状況から判断することとします。

【バスツアーの計画】

- ・実施時期：2021年11月25日（木）～26日（金）
- ・行程計画：1日目（11/25） 9:00 豊田市駅出発→18:00頃 豊田市駅解散
山部会の提案：水源涵養モニタリング調査サイト、奥矢作川レクリエーションセンター
川部会の提案：阿摺ダム、阿摺ダム下流部
- 2日目（11/26） 9:00 豊田市駅出発→17:10頃 豊田市駅解散
川部会の提案：明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川
海部会の提案：矢作川浄化センター、東幡豆海岸

3. マイクロプラスチック公開講座の計画について

今年度は、7月にマイクロプラスチックに関する公開講座、10-11月にネオニコチノイド系農薬の公開講座を開催します。WGでは、7月31日に開催するマイクロプラスチックに関する公開講座の内容、講座の進行、チラシ配布方法、情報発信方法等について話し合いました。

【第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」についての内容】

- ・開催日時：2021年7月31日（土） 15:00～17:00
- ・開催場所：ZOOMによるオンライン開催。メイン会場は、kabo.（豊田市）。
- ・講座の内容 第一部：挨拶・問題提起 第二部：千葉先生による講義 第三部：ディスカッション 第四部：閉会挨拶
- ・主催：矢作川流域圏懇談会
- ・公開講座の周知方法：チラシを地域部会WGで配布。各地域部会メンバーの所属先等に周知。SNS等による周知。

4. その他（10年誌の活用について・根羽村「森の交流館」について）

- ・2020年12月発行の矢作川流域圏懇談会10年誌の活用について、配布状況や今後の展開について話し合いました。
- ・2020年4月に開館した根羽村「森の交流館」について、設立の背景や目的、施設の内容、今後の活用等について、説明いただきました。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●バスツアー計画について

- ・バスツアーで説明していただく方々への確認はどうか。(光岡)
 - ▶ 説明していただく全ての方々の確認済み。9月に最終判断することも了承を得ている。(事務局)
- ・マイクロバスは2台用意する。1台25人乗りなので、半分となる場合は1台11~12名の乗車となる。(事務局)

●マイクロプラスチック公開講座について

【公開講座の情報発信について】

- ・チラシ1000部の印刷が完成するのはいつごろか?(光岡)
 - ▶ 6/14の海部会WGまでにチラシを完成させ、配布できるようにする。6/22川部会WG、6/25山部会WGでもチラシを配布する予定。チラシは地域部会で希望部数を渡していく。(事務局)
- ・チラシの配布と並行して、HP上で公表したものを周知していきたい。いつから周知を開始してもよいのか?(近藤)
 - ▶ 6/14海部会WGで配布することから、その日を公開開始としたい。(事務局)
 - ▶ チラシを公開する流域圏懇談会HPのアドレスをメーリングリスト等で拡散していくことで進める。(近藤)
- ・企画は市民部会でやっているが、主催は「矢作川流域圏懇談会」がよいと思う。(近藤)
- ・女性が集まる団体などで、マイクロプラスチックとネオニコチノイドの公開講座をやることを伝えている。かなり関心が高いので、崇化館交流館や岡崎市などにチラシを置くとよい。(沖)
- ・NHKでマイクロプラスチックなど化学肥料の問題を取り上げていたことから反響は大きいと思う。(山本薫)
- ・SNS発信するときは、ハッシュタグを付けると効果が大きいという話を聞いた。(中田)

【公開講座の進行について】

- ・公開講座を実施する時に、千葉先生はどこから、どういう形で講義をされるのか?(光岡)
 - ▶ 豊田市のkabo.がメイン会場となるので、千葉先生にはそこで講義していただき、ZOOMで配信する。(事務局)
- ・オンライン参加の方々の意見を聞くことは可能か?(光岡)
 - ▶ ZOOMのチャットを使って参加者の意見を集める。学生の協力も検討する。(事務局)
 - ▶ 500名参加したら相当な規模の講座となる。事務局でチャット専用の係を設置する必要がある。出た意見の中から取り上げる質問や意見をセレクトして、千葉先生に投げかける役割が必要となる。(近藤)
- ・第三部のディスカッションでは、いろいろな議論があると思うので、やりとりする人を用意しておく。たとえば、「別な視点でどうですか?」という感じでそれに答える人、コメンテーターのような人を予定しておく(近藤)
- ・第三部のディスカッションでは、ディスカッションを進行する人を配置するほうがよい。(近藤)
- ・第三部のディスカッションの進行役を配置する。また、全体の進行役も必要となる。(光岡)
 - ▶ 全体の進行役は市民部会会長がよいと思う。第二部・第三部の講演に関係するところは近藤が進行する。(近藤)
 - ▶ 全体の司会と第一部は光岡さん、第二部・第三部の進行は近藤さんがよい。(山本薫)

【公開講座後も含めた展開について】

- ・公開講座後も含めて、講座に参加した方々の意見とかの受け皿としてLINEなどが利用できればよい。(山本薫)
- ・流域圏懇談会の活動や取組に参加したいと思った人を募集するサイトの設定などについて、今後検討していくことが重要と思う。(近藤)
 - ▶ 事務局側としては、LINEはセキュリティ問題があるので事業として導入・運営するのは難しい。流域圏懇談会とは別に管理者を置いて展開するのであれば可能かと思う。(事務局)
 - ▶ LINEは、100名を越える場合はなじまない可能性がある。他には、InstagramやFacebookなど。(近藤)
 - ▶ 流域圏懇談会として、公開講座を通じて関心を持った方々を巻き込む方法等を検討する必要がある。(光岡)
 - ▶ 流域圏懇談会としてマイクロプラスチック問題をどうしていくかは、さらに議論が必要。公開講座を通じて関心を持った方々と繋がるのが重要と思う。(山本薫)
 - ▶ 公開講座を通じて繋がった方々の受け皿は、流域圏懇談会の中では市民部会と思う。(沖)
 - ▶ 公開講座後の受け皿としてLINEも一つのツールとして、その活用を講座当日で紹介することで進める。(光岡)

●その他

- ・10年誌から矢作川流域圏での活動に驚きの反応が多い。今日は新潟県まで10年誌を送った。(沖)
- ・多摩川の関係者では、地域づくりやまちづくり等の活動において参考になると喜んでいただいた。(中田)
- ・10年誌の増刷の予定はどうか?(光岡)
 - ▶ 予算などから増刷について検討していく。(事務局)
- ・根羽村「森の交流館」は、庄内川・土岐川の流域圏活動の一つとして作った。矢作川流域圏の方々にも利用していただきたい。(溝口)

今後の予定

■市民部会WG 日時：2021年8月18日(水) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@milit.go.jp) までお送りください。

